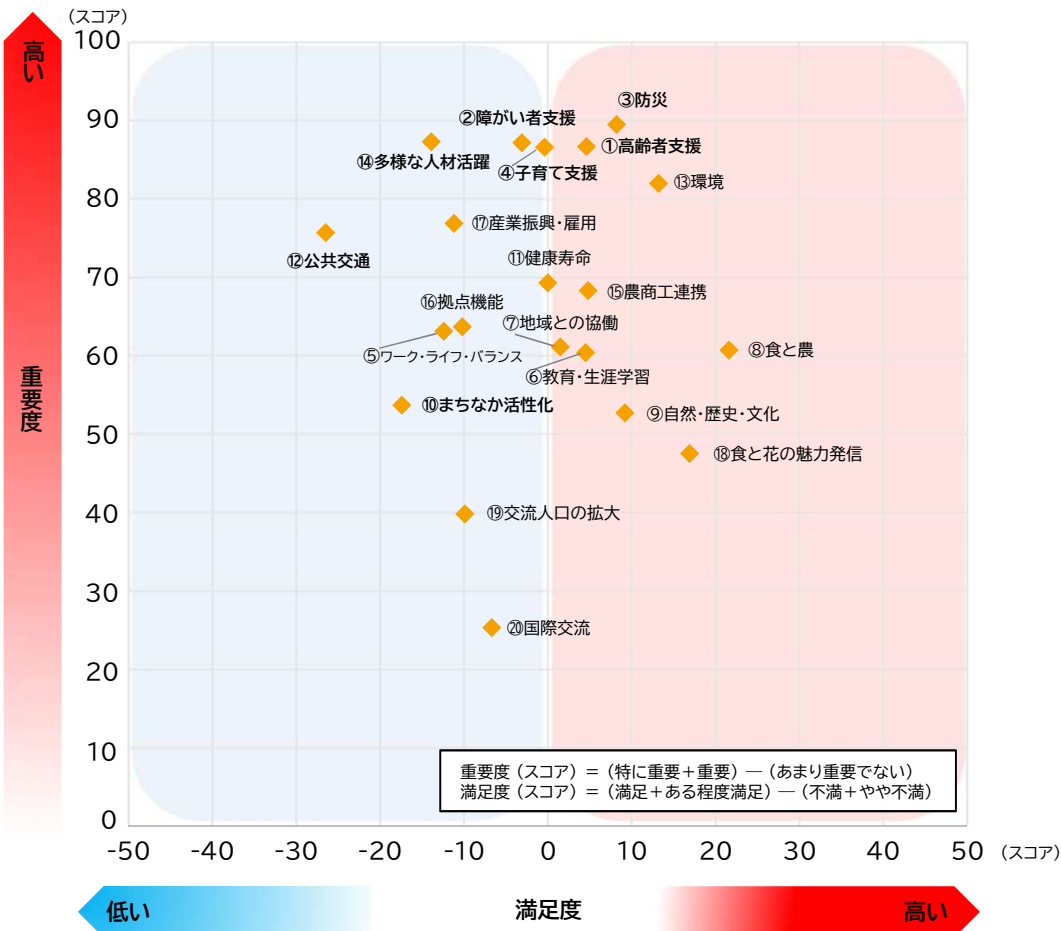


市民アンケート 1. 新潟市が進めている主な取り組みについて

◎ テーマ 「新潟市が進めている主な取り組み」について、**新潟市の未来にとっての重要度**をお聞きし、市政世論調査の満足度調査結果とのポートフォリオ分析を行いました。

◎ 調査結果 重要度が特に高いと回答が得られたのは、「**防災**」、「**多様な人材活躍**」、「**障がい者支援**」、「**高齢者支援**」、「**子育て支援**」であった。
満足度が低いと回答が得られたのは、「**公共交通**」、「**まちなか活性化**」であった。



● 調査の設計

- ・対象者 : 新潟市に住民登録している満18歳以上の男女計**4,000人**
- ・調査方法 : 郵送法、WEB調査法
- ・調査期間 : 令和3年10月30日(土)~11月12日(金)
- ・回答数 : **1,793通** (郵送 1,413、WEB 380)、回答率**44.8%**

● 重要度が特に高かった取り組みについての主なご意見

○ 防災

- ・誰もが安心して暮らせる、災害に強いまちづくり
- ・冬季の除雪体制の整備に取り組んで欲しい

○ 多様な人材活躍(女性・若者・障がい者)

- ・女性が家庭や職場で安心して子育てして働ける社会に
- ・障がい者の雇用を増やし、働きやすい環境の整備に力を入れて欲しい
- ・若い世代が生き生きと働けるまちづくりを

○ 福祉(障がい者・高齢者)・子育て支援

- ・障がいを持つ人も安心して暮らせるような支援
- ・高齢者にも優しく住みよいまちづくり
- ・子どもを安心して産み、育てられる地域・社会づくりが必要

● 市民の満足度が低かった取り組みについての主なご意見

○ 公共交通

- ・公共交通機関の利便性を向上させ、自家用車がなくても移動しやすく、生活しやすいまちづくりを進めて欲しい

○ まちなか活性化

- ・古町地区や商店街の活性化に取り組んで欲しい
- ・若者が魅力を感じるような、魅力あるまちづくりが必要
- ・アウトレット、大型商業施設などの誘致と活気あるまちづくり

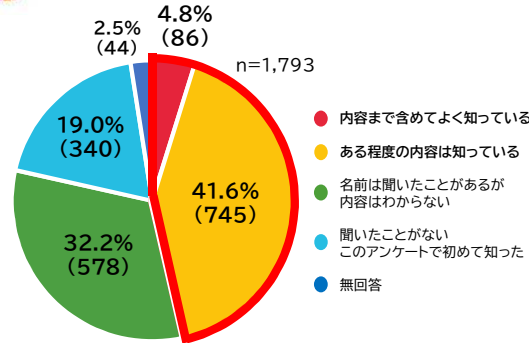
市民アンケート 2. SDGsについて

◎ テーマ SDGsの認知度・関心度をお聞きしました。

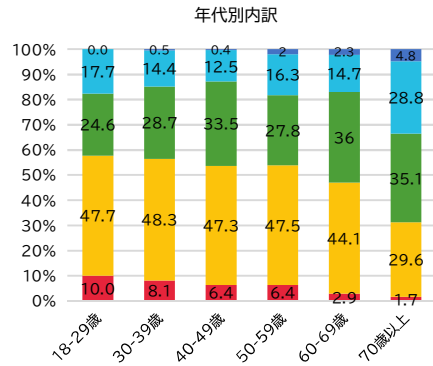
◎ 調査結果

若い年代ほどSDGsの認知度が高かった。
 半数以上が関心を持つのは、健康、福祉、住み続けられるまちづくり、気候変動、貧困であった。
 全世代で約50%が関心を示しているが、既に取り組んでいるのは約20%であった。
 SDGsに取り組む企業・団体に対しては約70%が良い印象を持っていた。

SDGsについて知っていますか。

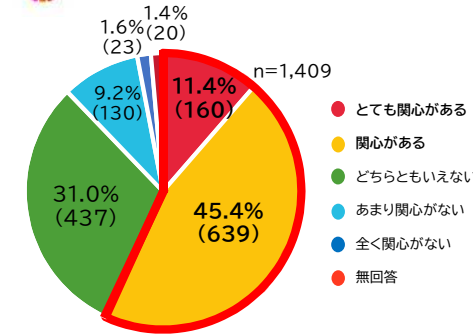


約45%が『知っている』と回答

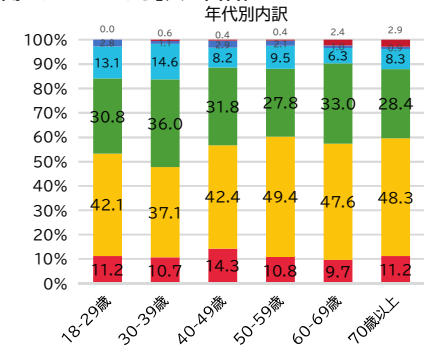


18～29歳で最も認知度が高く、
若い年代ほど認知度が高い傾向にある

SDGsに関心がありますか(「知っている」「聞いたことがある」人が回答)

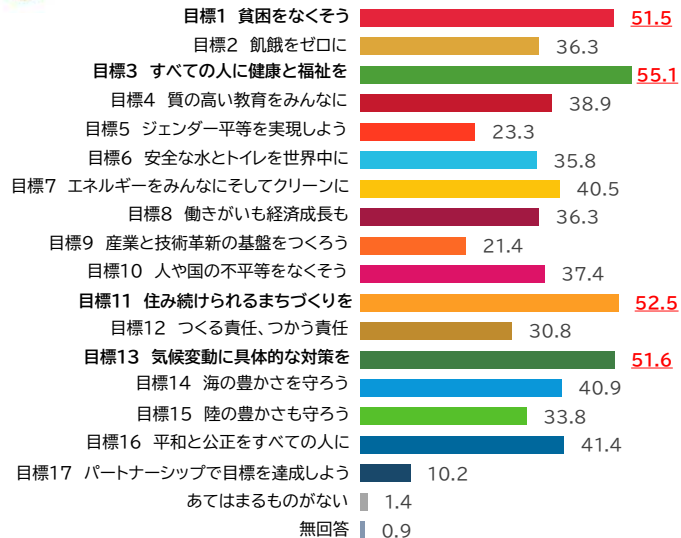


50%以上が『関心がある』と回答



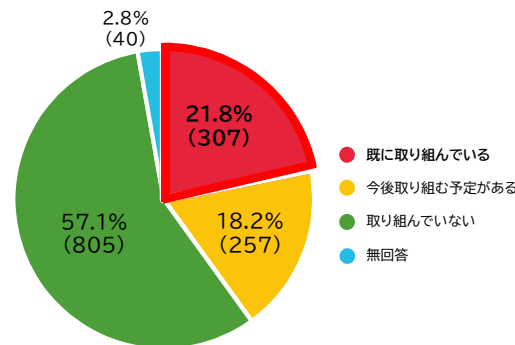
50～59歳で最も関心度が高いが、
年代による大きな差はみられない

SDGsのどの目標に関心がありますか。



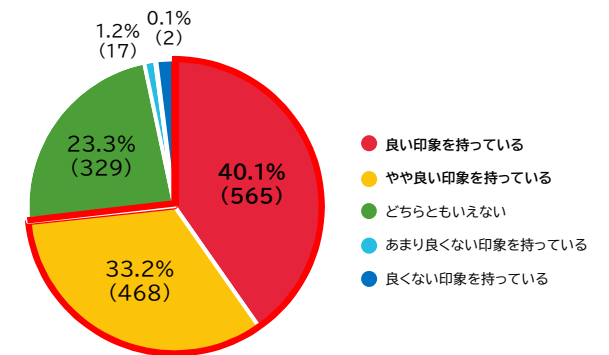
半数以上が関心を持つのは、目標1、3、11、13

SDGsに関する取り組みを行っていますか。



『既に取り組んでいる』のは約20%

SDGsに取り組む企業・団体にどのような印象をお持ちですか。

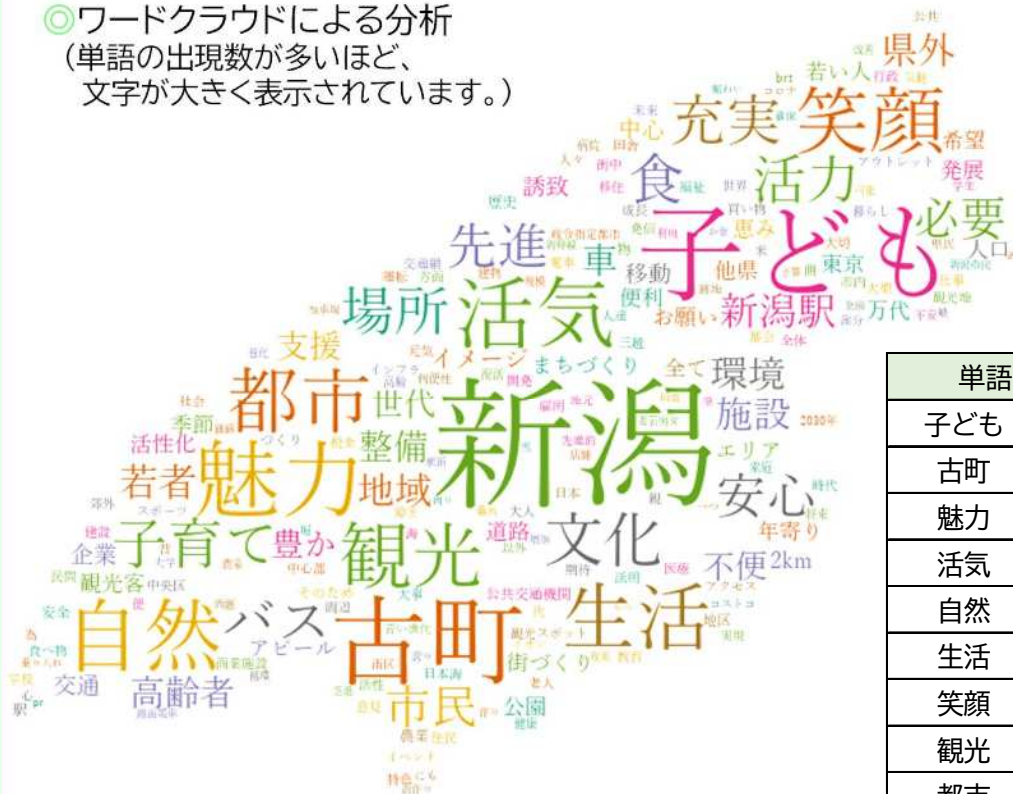


70%以上が『良い印象』を持っている

LINE・インターネットアンケート

- ◎ テーマ LINE等で「2030年の新潟市がどんなまちになっているといいですか?」のご意見をお聞きしました。
- ◎ 調査結果 「子ども」「古町」「魅力」といった単語を含んだ回答が多い結果となりました。
未来を担う子どもたち、古町の活性化、新潟市の魅力向上などについての関心が高いと考えられます。

- ◎ ワードクラウドによる分析
(単語の出現数が多いほど、文字が大きく表示されています。)



(注)「新潟」を除く

単語の出現数 トップ10	
子ども	117
古町	106
魅力	83
活気	70
自然	70
生活	62
笑顔	61
観光	57
都市	56
文化	54
...	
出現数の合計	7,888

- 対象者:新潟市LINE公式アカウント友だち登録者 ほか
- 回答件数:621件
- 実施方法:LINEでアンケート及び回答フォームを送信
- 実施期間:令和3年11月26日(金)~12月12日(日)

市外在住者アンケート (LINE・インターネット)

- ◎ テーマ 「新潟市にあって、お住まいの地域にない魅力は?」
- ◎ 調査結果 他都市と比較して、「交通基盤をはじめとする拠点性」や「盛んな農業」「豊かな食」が本市の魅力だと考えられます。

単語の出現数	
交通 (空港・新幹線・道路)	12
農業・田園・お米	10
食・お酒	6
海・港・海産物	6
自然・公園	6
その他 (都市と田園、人情など)	8

- 対象者:新潟市サポーターズ倶楽部 および
新潟市LINE公式アカウント 友だち登録者(市外)
- 回答件数:19件
- 実施方法:対象者へ回答フォームを送信
- 実施期間:令和4年2月1日(火)~2月13日(日)

団体アンケート

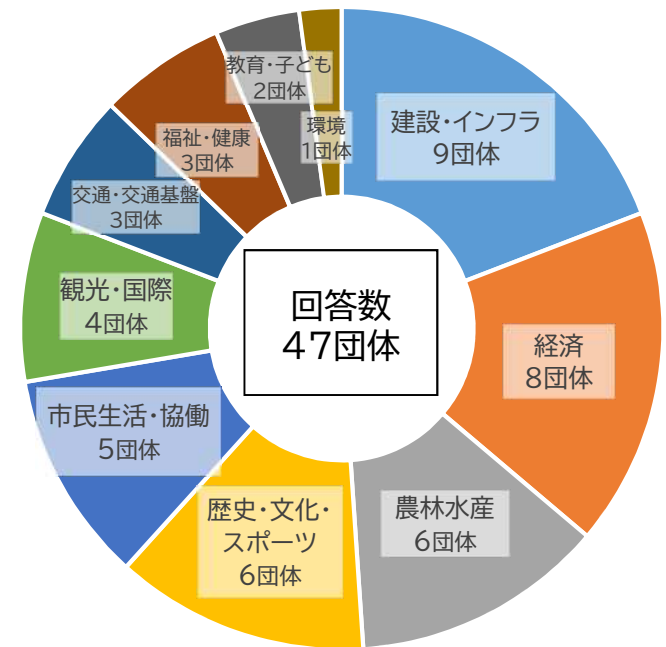
- ◎ テーマ **新潟市が持っている「強み」や「優位性」について、団体(非営利団体)にご意見をお聞きしました。**
- ◎ 調査結果 **様々な分野の団体からご意見をいただいた「広域交通・拠点」をはじめ、自然、食、歴史・文化など、本市には幅広い強み・優位性があると考えられます。**
- ◎ 設問 **新潟市が持っている「強み」や「優位性」を具体的に教えてください。(自由記述)**

頂いたご意見をキーワードごとに整理しました。(意見数と回答数は一致しません)

(参考) ご回答いただいた団体の分野

キーワード	意見の数
広域交通・拠点	36
自然	18
食	14
歴史・文化	12
農業・水産業	11
地域、協働	10
都心	10
教育	8
雇用	7

キーワード	意見の数
観光・MICE	6
子育て	6
インフラ・公共交通	6
安心安全	5
福祉・支えあい	3
女性活躍(育児両立)	3
スポーツ	3
健康	2



- 対象団体: 市政に関係する85団体(各部局・各区より選定)
- うち回答数: 47団体 69件

- 実施方法: 選定団体へメールで調査票を送信
- 実施期間: 令和3年10月28日(木)~12月10日(金)

みんなで新潟市のミライをかたるワークショップ みんなで考え、みんなで創る2030年の新潟市 ～より住みよく暮らしたいまちにするために～

- テーマ：1 理想のまち(あなたにとって住み続けたい、暮らし続けたいと思うまち)
2 新潟市の現状(理想のまちと比べ、新潟市の現状はどれくらいか)
3 目指す方向性(2030年を見据え、新潟市のまちづくりの目指す方向性は)
- 参加対象者：**多様・多世代**
(転入者、外国人、障がい者、勤労者、農業者、LGBT、高校生、大学生、高齢者など)
- 参加人数：36人
- 開催日程：令和3年11月7日(日)
- 開催場所：新潟ユニゾンプラザ 大研修室

理想のまち

- みんなが夢や希望をもち、多様性を受け入れられるまち
- 何気ない日常の幸せを感じるまち
- 障がいがあっても不自由なく暮らせるまち
- 子どもにやさしく、子育てしやすい環境が整ったまち
- 環境にやさしく、豊かな自然を感じられるまち
- 好奇心をくすぐる変化に富んだ魅力のあるまち
- 若者が夢や希望をもって、学び、働いているまち
- 自分のやりたいことが実現できるまち
- 働く場が充実していて、誰もが働きやすいまち
- 首都圏とのアクセスがよく、ビジネスと暮らしのバランスがよいまち
- 近隣の助け合いが充実しているコミュニティがあるまち
- 公園や歩道などが充実し、環境が整備されているまち
- 公共交通やインフラが整備されているまち

目指す方向性

目指す方向性

- 全ての人にとって住みやすい多様性のあるまちをつくる
- 多文化を理解し、外国人が生活しやすい環境を整える
- 障がいのある人への理解を深め、暮らしやすい環境を整える
- 子どもへの教育、子育て支援の充実を図り、子育てしやすいまちにする
- 福祉を充実させて、住みやすいまちをつくる
- 脱炭素社会の実現に向け、環境に優しく自然を生かした持続的なまちづくりをする
- 新潟市の絶対的な魅力をつくり、さらに魅力をもっと外部に発信すべき
- 若い人が輝けるような支援体制をつくる
- 企業に力があり、誰もが働きやすい、起業しやすいまちにする
- IT環境を整備し、リモートビジネスがしやすい、場所を選ばず仕事ができるまちにする
- 人が集まる場をつくり、人と人がつながるコミュニティの構築を強化する
- 既存の公共空間などを有効活用して、持続的なまちづくりを進めていく
- 新潟市全体の交通環境を時代に即して整える

全体のまとめ

新潟市の現状

- 暮らし続けたい環境が整ったいいまちである
- みんなが夢や希望をもち、共生社会にしていく必要がある
- 外国人への理解、支援がされている状況もあるが、外国人に対するサービスや生活支援の充実をさらに図っていく必要がある
- 障がい者への理解は高まってきているが、まだまだ十分ではない
- 子育てする環境整備・子どもへの福祉・教育をもっと充実させる必要がある
- 自然に囲まれたいいまちである
- おいしい食材や加工技術があり、食料自給率も高い
- 循環型社会の実現に向け、自然との共存を長期的な視点で考えていく必要がある
- 新潟市は港町としての良さが今も息づいている。この良さをもっと活かしていきたい
- 新潟市には隠れた魅力がたくさんあるが、それを生かせていない、情報発信が足りない
- 若者にとって希望の持てるまちになるための対策が必要である
- やりたい仕事がいつでもできるような環境が整っていない
- UIJ ターン者の受け皿になるまちとしての可能性がある
- 以前よりは便利になったが、IT 環境はまだまだ不十分である
- 人と人とのつながり、コミュニティが少ない
- 公共空間など、まちの環境整備が必要
- 新潟市は完全に車社会になっているので、新しい仕組みの導入や、誰でも使いやすい公共交通機関を整備をする必要がある



パパママのまちづくりワークショップ

◎ テーマ 子育てしやすく、希望する子どもの数をかなえられる新潟市となるには

- 参加対象者:子育て世帯
- 参加人数:26人
- 開催日程:
 - ・白根児童センター 9月27日(月)
 - ・子育て応援ひろば 10月3日(日)
 - ・い〜てらす 10月4日(月)
 - ・かめっこ広場 10月16日(土)

主な意見のまとめ

◎子どもや子育て世帯が利用する施設を充実させる。

- ・歩いていける距離にある子育て支援センター・児童館、屋根付きの施設、整備された公園など、子どもが遊べる場所を充実させる。
- ・空き家などの既存施設を活用し、多世代が交流できるようにする。
- ・普段利用する施設に、ベビーベッドなど子育て世帯向けの設備を充実させる。
- ・予定外の急な依頼であっても、子どもをすぐ預けることのできる場所をつくる。

◎地域が子育て世帯に優しく、みんなで見守りながら子育てできるまちにする。

- ・地域と子育て世帯をつなげる仕組みをつくる。
- ・地域として子どもを見守り、子どもや子育て世帯に優しいまちにする。

◎育休を取得しやすく、働きながら子育てできる環境を整備する。

- ・男女ともに育休が取れる環境を整える。
- ・育休に対する社会の理解を深め、育休制度があっても取りづらい雰囲気を無くす。
- ・夜間や土日などでも子どもを預けられる場所を充実させる。

◎子育て世帯への支援が充実しているまちにする。

- ・人手が欲しいときにすぐ駆け付けてくれるシステムや制度を整える。
- ・医療費助成など、子育て世帯への支援を充実させる。
- ・子育て世帯向けの講座や新生児訪問などについて、内容の充実を図る。
- ・子どものうちから、学校で出産や育児について学ぶ機会をつくる。



学生が描き、創る未来の新潟市ワークショップ

◎ テーマ 2030年の新潟市の理想像とその実現のために、私たちができること

- 参加対象者:大学生、短大生、専門学生
- 開催方法:Zoomを使用したオンラインワークショップ
- 参加人数:30人
(県外在住の新潟市出身の学生2名含む)
- 開催日程:令和3年10月23日(土)

学生が考える重要な方向性

◎先進的なDX都市を目指す

- ・学生、民間企業、行政がタッグを組んでITの技術を高めていく

◎コミュニケーション&政策提言

- ・SNSを使った仕組みで社会の変化に対応 協働の場を創る
- ・誰もが政策策定に参加できる都市

◎NO.1の魅力をつくる／新潟市のシンボルを前面に打ち出す

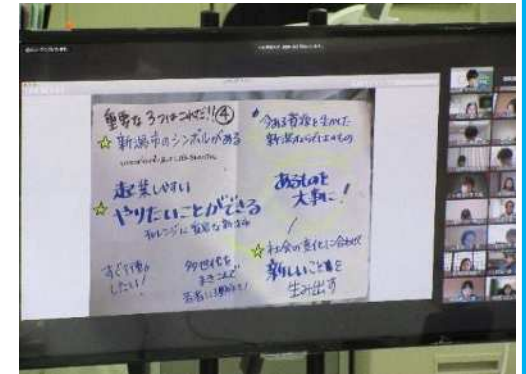
- ・世界に誇れる新潟の魅力を磨く・創り出す
- ・新たな魅力づくりよりも、今あるものから他の地方都市と差別化できる要素は何かを真剣に考える
- ・今ある資源を生かした「新潟ならではの」ものを絞り込む

◎チャレンジに寛容な都市／地元愛× 起業／やりたいことができる土壌のある都市／新しい考えや変化に素早く適応する都市

- ・多様性にあふれ、起業を後押しする環境が整っている
- ・新潟が好きな若者がチャレンジしやすいまちにする
- ・一人ひとりの考えが大切にされ、社会課題を解決しながら挑戦していく
- ・社会の変化に合わせて「新しい何か」を生み出す

◎生き方・働き方の多様な都市／やさしく多様性が保たれた都市／住み続けたい都市

- ・戻ってきたい、新たに來たいという環境をつくっていく
- ・誰もが差が無く、幅広い多様性を保ち、住みよさを実現していく
- ・今いる人がずっと住んでいたいと思える生活インフラを整備する



私たちができること

- ◎魅力をカッコよく発信・再発見する
SNS・まち歩きなど
- ◎起業家となり、若者世代をひっぱる
ITで仕組みをつくり解決する
- ◎企業・地域・行政と学生の関係を変革する
協働の場づくり
- ◎あたたかみのあるソリューションを提供する
認知症カフェ、訪問診療など

新規採用職員ワークショップ

◎ テーマ 2030年の理想の新潟市を実現するため、これからの行政がすべきこと

- 参加対象者:令和3年度 新規採用職員
- 開催場所:新潟市音楽文化会館 練習室13
- 参加人数:67人(午前:35人、午後:32人)
- 開催日程:令和3年11月12日(金)

各班のまとめ意見

安心して暮らし続けられるまちをつくる

- ・ずっと住み続けたいまちであるために市民に魅力を発信し、安心安全な環境をつくる
- ・税金を正しく使い、誰もが暮らしやすいまちへ
- ・市民が健康で、愛着をもって生涯定住したいと思えるまち
- ・(市)区民がくらしやすいまち～各区の拠点整備をめざしたまちづくり～(コンパクトシティ)
- ・安心して暮らせる活気ある新潟市 市民と協働し、ニーズに応える施策

まちの魅力を引き出し、効果的に発信する

- ・遊べる、暮らせる、働ける ～魅力を引き出すまちづくり～
- ・誰もが来たいと思う町にするため、シンボルを作り、魅力を高める
- ・みんなで魅力を発信し、人が集まるまち新潟
- ・誰もが魅力を語れるまち にいがた2kmを起点とした情報発信をする

新潟への誇りと愛着の醸成を図る

- ・住民が新潟市に誇りを持ち住みつづけたいと思える、そんな街。
- ・新潟市好きを育て、生み出すまち 市内外に魅力をPR !!

若者が働きやすい環境をつくる

- ・誰もが魅力を感じる暮らしやすいまち新潟 若者が就職しやすい環境整備
- ・「若者でにぎわう活力あるまち」に向け、雇用・観光・環境整備の点から地域活性化を図る。
- ・若者が来たい、住み続けたいと思ってもらえるまちにするために行政がすべきこと

